

学術論文作成法（二）（2単位）

担当者氏名 中川 純一、相根 義昌、遠藤 明仁

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

国際的な英文学術誌への論文投稿を目標として、論理展開から英文や図表の作成、投稿規定に合致する編集も含めて体験によって身につけさせる。本講義により、受講生は中間難易度の英文作成を出来るようになり、また英語での簡単な図表作成が出来るようになる。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

化学英語 ライフサイエンス 英作文 英文要旨
英文和訳

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1 -3	図表の作成（相根）	基礎的なインフォグラフィクス（情報デザイン）について学び、わかりやすい図表を作成するテクニックを身につける。	自分でわかりやすいと思う図表を見つけ、どこがいいのかを自分なりに考える。
4 -5	学術英語論文に慣れる（相根）	著名な成果を発表した論文等を参考に、学術論文に頻繁に使用される英単語や英熟語を学ぶ。	毎回の授業の復習を十分に行い（1時間以上）、授業に備える。
6 -8	基本的な文章の英作文（遠藤）	英作文する文章の専門性は低い、専門的な文章を英作文するうえで必要な文法、単語、英語特有の言い回しなどを学ぶ。	毎回の授業の復習を十分に行い（1時間以上）、授業に備える。
9 -10	専門的な文章の英作文（遠藤）	各自の研究テーマに合わせた文章について英作文を行うことで、将来的な英語論文作成のために必要なテクニックを養う。	毎回の授業の復習を十分に行い（1時間以上）、授業に備える。
11 -13	学術英語論文の要旨とイントロダクション部分の英作文（中川）	投稿原稿の要旨とイントロダクションは特にまとめ方の工夫と一般性が要求されるので、そのテクニックを具体的な例文作成によって演習形式で学ぶ。	宿題として出す英語課題を前もってやっておく（1～2時間を要する）
14 -15	英語論文の方法と結果部分の英作文（中川）	きっちりとした読み違いのない科学英文の作成法と実際の参加者の実験方法や結果にそって作成して、演習形式で学ぶ。	各人に課題を出すので前もってやっておく（1～2時間を要する）

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

教科書としての選定はおこなわず、適宜トピックに関連したプリントを配布。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業参加2/3以上の学生に対して、討論成績、課題レポートによって評価する。

◆オフィスアワー

随時

◆その他受講上の注意事項

受け身ではなく、積極的なディスカッションへの参加姿勢を持って受講すること。